

平成21年度第10回 公立大学法人熊本県立大学教育研究会議 議事録

日 時：平成21年11月16日（月）午後2時30分～午後4時00分

場 所：公立大学法人熊本県立大学大会議室

出席：学長	米澤 和彦
副学長	古賀 実
事務局長	富永 安昭
文学部長	三木 悦三
環境共生学部長	大和田 紘一
総合管理学部長	松岡 泰
地域連携センター長	篠原 亮太
学術情報メディアセンター長	山田 俊
文学研究科長	半藤 英明
熊本県公立高等学校長会会長	石井 博憲
熊本近代文学館館長	河原畑 廣
和洋女子大学学長	坂本 元子

事務局：三角事務局次長、井上学生サービス担当次長兼教務入試課長、馬場総務課長、高橋学生支援課長、田中学術総合メディアセンター事務長、教務入試課林田教務班長、教務入試課安達入試班長、教務入試課澤田参事

1 開会（進行：三角次長）

2 学長挨拶

新聞、テレビ等で御承知と思うが、本学で銃刀法違反の事件が発生した。詳細については、後ほど御報告申し上げる。今年度の地域貢献度は、740の国公立大学のなかで全国1位になった。教職員の皆様、学生諸君にも大変お世話になった。

3 議事（議長：米澤学長）

(1) 審議事項

① 教員の採用について

事務局から、資料1-1に基づき、文学部、環境共生学部、総合管理学部、各1名ずつ、3名について、これまでの経緯について説明があった。

・英語教育（文学部）

続いて三木文学部長から資料4-2（会議後回収）に基づき、「学内の教員を念頭に入れた人事で、リチャード・レイヴィン氏を文学部の人事選考委員会で選考した。

英語教育、英語コミュニケーションという形で募集して、選考委員会で掲げた7つの基準についていずれも満足のいくものであった。職位は資格審査委員会を経て准教授として採用したい。レイヴィン氏は環境共生学部の教員として、平成14年4月に着任以来、8年にわたって、英語教育に貢献してきた。人物・学識とも全く申し分がない。文学部として理想に合致すると判断した。レイヴィン氏についてご承認いただきたい。」との説明があった。古賀委員から、11月16日に資格審査委員会で審議したとの報告があった。

・臨床病態学（環境共生学部）

続いて、大和田環境共生学部大和田学部長から資料4-3（会議後回収）に基づき、「榊田先生が亡くなられたが、食健康科学科には、管理栄養士養成課程があるため、医師の免許のある方が一人必要である。病態学、博士の学位を取得し、博士の指導ができる方、臨床経験が望ましいとして公募した。全国から10名の応募者があり、人事選考委員会を設けて検討した。10名の方の業績、分野、いろいろと調べて、管理栄養士養成課程であり、代謝内科、循環器科の人がいいのではないかとということで候補者を絞り、福島先生、B先生、C先生と順位をつけた。

福島先生にはプレゼンテーションをお願いして、これまでやってきた仕事、教育に対する抱負などをお聞きした。定年まであと5、6年あるので、ぜひ大学で教えたいということだった。10月13日の人事教授会で承認いただいた。」との説明があった。続いて、古賀委員から、資格審査委員会を11月16日に開催し、教授で採用ということになったと報告があった。

・看護学（総合管理学部）

続いて、総合管理学部松岡学部長から資料4-4（会議後回収）に基づき、「荒木先生は、すでに3年半、本学で指導にあたられている。県からの派遣として来てもらったが、任期が再来年春には切れる。これを機に本学の教員として正式に採用するという。プレゼンテーションなどはしていただいていない。管理コースの中心的な人物である。ドクターの方の指導もあるので、この方がいらっしゃらないと、看護管理コースが崩壊するぐらい重要である。」との説明があった。古賀委員から、11月16日の資格審査委員会で、審議したと報告があった。続いて、古賀委員から、資格審査委員会を11月16日に開催し、教授で採用ということになったと報告があった。

審議の結果、3名とも案のとおり承認した。

(2) 報告事項

- ① 平成22年度入学者選抜における新型インフルエンザ発生時の対応方針について

事務局から、資料2に基づき、「すでに公表しているところであるが、資料4ページの文部科学省の方針にそって、9ページの公立協会のガイドラインが決定され通知された。本学においても追試験を実施することとする。」との報告があり、実施方法や留意事項などについての説明があった。

② 平成22年度特別選抜（推薦、くまもと夢実現、社会人、帰国子女）の出願状況について

事務局から、資料3に基づき、次の説明があった。「特別選抜、出願状況がまとまったので報告する。推薦入試は、全学で73名の募集に対して、153名の出願がっている。募集定員を73名として以後、下の段は募集定員が異なっている。平成15年までは2倍を超えていた。16年度以降は、平成17年が2倍を超えた。久方ぶりに倍率が2倍を超えた。学科別にみると、環境資源学科が昨年の5名から10名、英語英米文学科が14名から18名、食健康科学科が19名から22名、総合管理学科が76名から81名に増加。高校別の状況は、全体でみると昨年より4校多い学校から推薦をいただいた。出願が増えた要因は、出願要件を昨年までの学習成績概評がA又はAに準じるもの、5段階評価の4.3以上としていたが、過去の合格の状況を見て4.0以上とした。それで、学校側が推薦しやすくなったのではないかと考えている。熊本夢実現は、全学部を通じて、全体として2名以内で、出願の際に志望学科を出していただく。県内の高校で県内の生活保護世帯に属する高校生が対象。成績の要件は設けていない。社会人は、例年1、2名の応募があるが今年はなかった。帰国子女は日文に1名であった。」

4 その他

銃刀法違反事件について、学長から「学生、教職員の皆さんへという文書を学長名で通知し、学生、教職員に周知した。」との説明があり、続いて事務局から事件の経緯と概要について説明があった。

○ 「大学の地域貢献度」について

事務局から、日本経済新聞社の全国調査の「大学の域貢献度」ランキングが全国1位になったとういことで次のとおり報告があった。「本学は、1回目が13位、2回目が10位、3回目が2位。今年はずいに総合1位になった。授業公開講座の開講講座数や受講者数、シンポジウム、こうのとりのゆりかごなどのシンポジウム、就職関係ではインターンシップの学生の参加数、県内の就職者数がベースとなっている。サテライトキャンパスを二つほど開設したのが、ポイントとして上積みされた。2位は北九州市立大。県内では熊本大学が11位にランクインしている。」

事務局から次回の日程の確認があった。12月14日（月）午前10時～

5 閉会 16時